

政治 I 問題集

2016 年度 S セメスター



この問題集は、鹿毛教官の政治 I：試験対策のために個人的に作成したものである。鹿毛教官の試験問題は良問ではあるが、フリースタイル論述 2 題で不可も一定数つくということで、特別の対策をとる必要を感じ、作成した。個人利用を想定したため、解答が一部なかったり、唐突にリンクが挟んであったりするが気にしないように。中盤から雑になったり書式がグダグダなのもご愛嬌。

1. 政治学における推論

a.記述的推論と因果的推論の定義を述べよ。さらに因果的推論は二分せよ。

2. 民主化の研究

a.

シュンペーターの民主主義の考えを二つ挙げ、説明せよ。

b.

(1) () は、「()」において民主主義の安定性の要因を探った。民主主義体制とは、① () を可能にする機会が () 上保障されている ② () が () に対して影響を及ぼしうる () が () いる こと。

(2)彼による民主主義の安定性の定義を二つ答えよ。

(3)彼はこの基準に基づき、51 か国を () 法を用いて四種類に分類した。すべて答えよ。

(4)安定に必要なものは、いずれも () できる。4つ挙げ、簡潔に説明せよ。

(5)そのうち特に重要とされるのは () である。これが高い人は、() が高いため () を肯定する。() も高いため、() であり、() 意識が高い。つまり、() の高まりにより、() に基づく、より () な政治を望むようになる。

(6)(4)の4要素は、互いに () があり、() となりうる。これが「()」と呼ばれる。

c.

() は「()」で近代化が民主主義体制（特に{ }) に与える影響を分析した。ラテンアメリカ、アフリカ、アジアの 19 カ国を調査した彼の説について説明せよ。

d.

() は「()」で、上記二人の「()」へ反論した。①この反論の背景となったことを指摘し、②彼の説について説明せよ

e.

前者二つと最後の説との間に差が生まれた理由を説明せよ。

f.

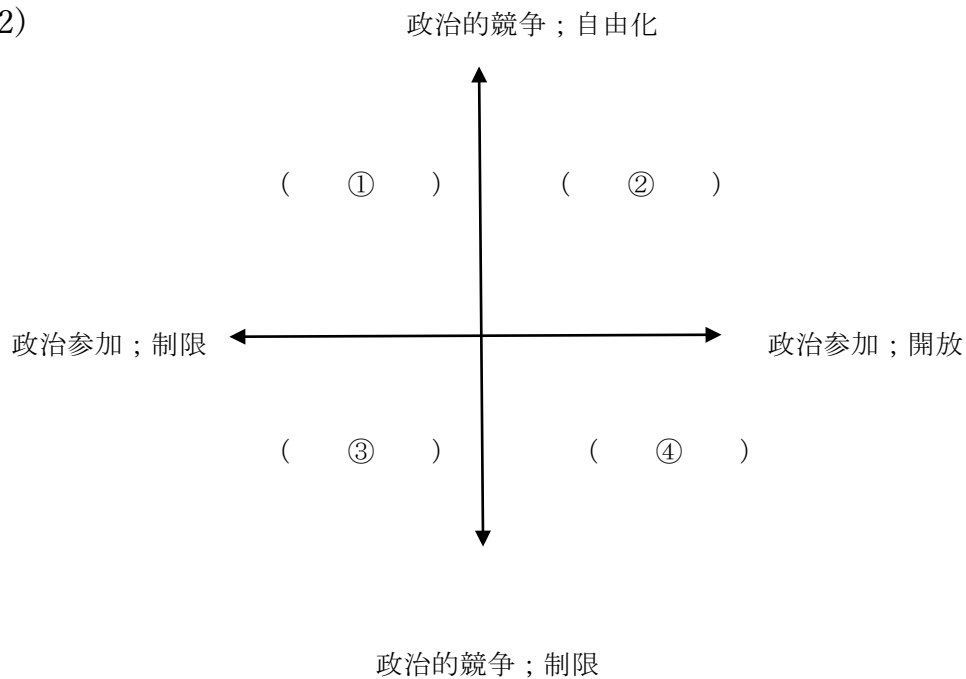
民主主義が経済混乱などの原因とされた事例を二つ例示せよ。

3. 民主化過程の研究

a.

(1) 「ポリアーキー」において () は、民主主義体制を、()、() の二次元で考えた。

(2)



(3) 彼の民主化論における、理想の民主主義への道筋を、なぜその道筋が最も理想的であるかに言及しつつ述べよ。他の道筋についても、具体例に触れながら述べよ (練習問題②改)

b.

(1) 「第三の波」における () の考えの特徴を簡潔に述べよ。

(2) 三つの「波」について、時期・具体例・発生理由に触れながら述べよ。

4. 大統領制と議院内閣制、半大統領制

a.

	解任（責任）のルール：議会による解任（責任）	解任は原則として不可能（固定任期制）
選出のルール；議会による選出	（ ① ）	（ ② ）
有権者による選出	（ ③ ）	（ ④ ）

b.

半大統領制について簡潔に説明せよ。

c.

大統領制は政治不安定をもたらすという説がある。これについて、①まず議院内閣制が安定する理由を述べ、②この理由を述べ、③②への反論を述べよ。

（練習問題⑤改）

d.

首相公選制について、考えられるメリット・デメリットに触れながら説明せよ。

5. 選挙

a. 選挙制度を5つ挙げ、それぞれ簡潔に説明せよ。

b. 優先順位付連記投票、小選挙区比例代表併用制について説明せよ。

c. デュヴェルジェの法則について、①内容を簡潔に述べ、②理由を説明せよ。

d. 投票をする理由として考えられる仮説を3つ述べよ。また投票先の決め方に関する理論を3つ述べよ。（練習問題7）

e. Riker-Ordeshock の式について説明せよ。

6.

a. サルトーリによる政党の定義を述べよ。

- b.政党の分類について、ヴェーバー・デュヴェルジェ・キルヒハイマーの分類の仕方を、3者の論の相互関係に言及しつつ述べよ。
- c.政党システムについて、①サルトーリの定義を述べ、②簡潔に説明せよ。
- d.デュヴェルジェとサルトーリによる政党システムの分類を述べよ。

7.

- a.利益団体の定義を述べよ。
- b.利益団体が政治において果たす役割について、二人の考えについて述べよ。
- c.集合行為問題について、①指摘した人物を挙げ、②説明せよ。

8.

- a.ヴェーバーによる支配形態の3つの分類を述べ、説明せよ。
- b.官僚の行動の決め方に関する3つのモデルについて論じよ。(練習10)
- c.鉄の三角形モデルとグループ理論を比較せよ。(練習11)
- d.政治家による官僚のコントロールが困難な理由を、本人＝代理人モデルの観点から論じよ。(練習12)

9.政治文化論

- a.アーモンドとヴァーバによる政治文化の定義を述べよ。
- b.アーモンドとヴァーバが立てた仮説を一文で述べよ。
- c.「民主化の成功には民主的な政治文化が不可欠である」という命題について論じて下さい。(2011)

10.経済政策

- a.ダウنزの空間競争モデルについて、①仮説の前提となる3条件を示し、②説明せよ。さらに、③政党側の前提となる2条件を挙げ、④反論せよ。
- b.セオドア・ローウィによる経済政策の3つの分類を挙げ、実施段階の違いに触れながら説明せよ。

11.

- a.福祉政策の分類の仕方およびその内容を簡潔に説明せよ（練習 13）
- b.福祉政策の充実度を決定づける要因について、ウィレンスキー・コルピ・キヤッスルズ・キャメロンの 4 人の説を、なぜその要因が福祉政策充実につながるのかという点に注意しつつ論じよ。
- c.アンデルセンによる福祉国家の性格の 2 つの指標を挙げ、説明した上で、彼による福祉国家の 3 類型について述べよ。

解答

1.

a.記述的推論とは、扱う事実に対して、ある指標を元にして仮説を立てて、測定を行うことである。指標から得られるものは仮説にすぎないので、様々な証拠を集めて推論し、改良を重ねる必要がある。

因果的推論とは、記述的推論での事象がどうして起きたのかを推論することである。そもそも記述的推論は仮説のものであるため、因果的推論で導き出されるものはさらに不確実なものである。これは、合意法と差異法に分けられる。合意法とは、事象が起こるに当たって、起こった場合の共通要因を考えることである。結果を固定して要因を考えるととも言える。差異法とは、事象が起こる場合と起こらない場合とを比べて、その差を事象が起こる原因とすることである。結果を固定することなく、要因を考えるととも言える。

2.

a.

古典的民主主義と手続的民主主義。古典的民主主義とは、人民が自らの意思を具現するために、政治的決断に関わる代表者を選ぶことで、公共の善を実現させようとするものである。手続的民主主義とは、「政治的決定に到達するために、個々人が人民の投票を獲得するための競争的闘争を行うことにより決定力を得るような制度的装置である」。民主主義という市場で、企業家たる政治家を志すものは、消費者たる市民の支持を獲得するために厳しい競争にさらされなければならない。民主主義とは、権力獲得の過程に「競争」という原理を導入する一つの方法と見るべきとし、彼は後者を支持した。

b.

(1)リセット、政治の中の人間、政権交代、憲法、国民のなるべく多く、国政上の重要な決定、機会、制度的に保障されて

(2)①第一次世界大戦後、民主主義体制が維持できたか否か ②その国の民主主義体制に正面から反対する有力な政治運動が発生しなかったか否か

(3)差異 安定した民主主義、不安定な民主主義独裁国、民主主義国と不安定な独裁国、安定した独裁国

(4)数値化

経済の高水準化の指標：一人当たり所得、人口当たりの医者の数など。所得が高いほど共産主義への支持は低下する傾向にあるので、所得増加＝格差是正による低所得層の穏健化が必要ということ。

工業化の進展の指標

都市化の指標：人口など

教育水準の指標：識字率、入学率など

(5)教育水準の向上、競争的環境への寛容度、競争的環境、少数派への寛容度、穏健、民主主義的、民主（主義）的意識、議論、穏健

(6)相関関係、社会の現象、近代化

c.

ドイツ、社会動員と政治発展、政治

彼は、近代化が政治のあり方を変えることを強調した。近代化は人々のニーズを質的に変え、ニーズの変化に対応するための国家機能拡大が必要となる。アフリカ、アジアの独立・近代化が進む中で、福祉国家が必要になると提唱した。

d.ハンチントン、変革期社会の政治秩序、近代化論

①アフリカ、アジア、ラテンアメリカでの政情悪化（＝民主主義体制の不安定化）

②彼は、近代化は伝統的統治システムを破壊しかねない（＝安定化に繋がらない）ものであり、結果的にクーデターなどに繋がり、民主化を妨げてしまうかもしれない、民主化に失敗すると主張した。

e.時期の違いという理由。前者二つの時代には比較的うまくいっていたが、60年だい半ばから、クーデターによる民主主義国家転覆が相次いだ。

f.

①ソ連崩壊後のロシア。経済成長が進むも所得格差が拡大、プーチンは経済界のリーダーを抑圧し、結局プーチンによる独裁制の強い政治に

②中国。経済発展しているが格差拡大している。

3.

a.

(1) ロバートダール、政治的競争度、政治的参加度

(2) ①競争的寡頭制②ポリアーキー③閉鎖的ヘゲモニー④包括的ヘゲモニー

(3) ダールにより最も安定的な移行とされたのは、閉鎖的ヘゲモニー→競争的寡頭制→ポリアーキーというルートである。エリートに広まってから自由化が進むことから、人数が少ない中での合意があれば物事を決定でき、スムーズな運営が可能であるから。また、政治的競争が早い段階では民衆に広がらないことも、安定性に寄与している。別のルートとしては、ワイマール共和国のような閉鎖的ヘゲモニー→ポリアーキーというルートがある。これは歴史的に珍しい。また、閉鎖的ヘゲモニー→包括的ヘゲモニー→ポリアーキーというルートもあるが、競争のルールが定まっていなまま民衆に政治が一気に広まるので、合意が取りづらく、危険を伴うとされる。ソ連など1960年代の共産主義系国家など。

b.

(1) ハンチントン 従来の一国一国の調査ではなく、国際的視野を重視し、民主化の過程には一般性があると考えた。

(2) 第一の波：1828-1926 スイス、イギリス、オランダなど アメリカ独立戦争やフランス革命に影響された。(革命自体は含まれない) ←産業革命による経済発展

第二の波：1943-1962 敗戦国(西ドイツ、日本、イタリア、オーストリア) 植民地独立も同時に進む ←WW2の影響(敗戦国&植民地)

第三の波：1970 後半～1990 前半 ギリシャ・スペイン→ラテンアメリカ、アジア→東欧民主化、ソ連崩壊、アフリカ民主化 ←

① 過去の民主主義の経験(民主化した国の多くに過去の民主主義の経験)

② 1960年代の経済成長→生活・教育水準の向上

③ 石油危機後の経済危機→既存政治体制への不満

④ カトリック協会の役割

⑤ 国際環境の変化：カーターの人権外交、ゴルバチョフのペレストロイカ→中南米、東欧の民主化に

「雪崩効果」「学習効果」：メディアの発達による民主化のニュース拡大

4.

a.

①議院内閣制②自立内閣制③首相公選制④大統領制

b.

大統領と首相が併存し、仕事を分担する。大統領は直接選挙、首相は議会多数派によってそれぞれ選ばれる。

c.

①議会の過半数から首相が選ばれることから、議会の首相への信頼が大きく、安定する。

②まず大統領制では、議会と大統領選出が別々に行われることから、議会多数派と大統領の支持政党が異なる場合（＝分割政府）が存在する。この場合、議会と大統領のどちらかの任期が終了するまで、大統領の政策決定に障壁が存在することになる。

理由としては、(i)過半数的傾向：過半数の意見のみを採用する傾向が強く、無視される少数派の不満が高まり、社会的対立を生みやすい。(ii)二重の正統性：大統領、議会とも別々の正統性を有しており、互いに協力する必要がなくなる。(iii)時間的硬直性：任期が固定されているため、支持率が低くても抗体が難しい。また、議会側は、大統領の任期終盤には見返りがもらえないとして大統領に協力をしない場合が存在する。

③(i)について、少数政党の些細な意見を無視できるので、政権運営がスムーズにいくと考えられる。連立政権に見られる内部分裂が生じない。(ii)について、議会は大統領に多少の興味を持ち、大統領は拒否権を持つため問題ない。

(iii)について、議会は大統領に対して見返りを求めて協力することはある

(?)のと、行政の長がしょっちゅう変わる議院内閣制にも問題があるだろうという反論

d.

首相公選制とは、議院内閣制においても首相を国民が直接選挙で選ぶこと。メリットとして、米国大統領が強い権力を持つように、公選制にすれば首相も強い権力が得られると考えられる。デメリットとして、国会多数派政党と首相所属政党が異なり、首相権力が弱体化することが考えられる。

6.

a.政党とは「選挙に登場して、選挙を通じて候補者を公職に就けさせる全ての政治集団」である。

b.ヴェーバーは、(貴族政党から)名望家政党、そして近代組織政党の形成という歴史的・段階的な発展論を示した。デュヴェルジェは幹部政党と大衆政党、(そしてその中間の間接政党)の3(2)種類に分類した。キルヒハイマーは包括政党に着目。これは階級政党と対比される。デュヴェルジェの類型が政党組織上の視点に基づく分類であるのに対し、階級政党と包括政党は政党がどのような有権者層を支持層として対象とするのかという選挙戦略の視点からの類型である。デュヴェルジェ(1917-2014)は、ヴェーバー(1864-1920)の研究を受け、全体的な視座をもたらす一般理論を提案した。

c.①政党システムとは、「複数の政党間の競争・協力パターン」である

②政党システムは、その政治システムにおける主要政党の数、政府間の勢力バランス、および政党間の政策やイデオロギー上の立場の位置関係などによって形成されている。

d.デュヴェルジェは数に注目し、一党制、二党制、多党制に分類した。サルトーリは数と質に注目した。

<http://note.masm.jp/%C0%AF%C5%DE%A5%B7%A5%B9%A5%C6%A5%E0/>参照 <http://esdiscovery.jp/vision/history002/military/politics004.html>

。

7.

a.利益団体とは、公共政策に影響を及ぼすために形成され、政党の機能を補完する私的な任意団体である。

b. ベントレーは、政治は社会集団間の対立や拮抗によって動いていく、決定されると考えた。政治というものがすべて社会集団の行動に還元できるとした点が特異である。国家がそれ自体の意思を持ったり役割を果たすことも想定せず、すべてを社会集団間の力のバランスに還元した。

トルーマンのグループ理論も、基本的にはベントレーの見解を踏襲し、社会集団間の対立、拮抗が政策決定につながるとする。社会が複雑化する中で、政治と社会(個人)を結びつけるのに議会だけでは不十分であり、議会とともに政治と

社会（個人）を結ぶ新たな経路として利益団体というものが非常に重要であると
し、国家は様々な利益団体が争う場（＝アリーナ）を提供するものだという。

c.

①オルソン

②共通の利益を実現する負担をしなくても恩恵を受けられる、と考えた人がフ
リーライダーになり、結局利益団体が組織されなくなるという問題。この問題
は利益団体の規模が小さい時には発生しにくいですが、現実には大きな利益団体が
存在している。この要因、すなわちフリーライダーの発生を防ぐ装置として、
オルソンは強制と選択的誘因を指摘する。選択的誘因とは、（コストを払っ
た）団体加入者だけに配分される利益のこと。

8.

a.伝統的支配：伝統的社会のルールに従う。カリスマ的支配・合法的支配

カリスマ的支配：指導者の人格による支配

合法的支配：法に基づく支配。

b.アリソンが「決定の本質」で提唱したものは、合理的モデル、組織過程モデル、
官僚政治モデルの3つである。合理的モデルとは、組織を一人の人間のような
単一の行為者とみなし、官僚を国益の追求者とするモデルである。組織過程モ
デルでは、官僚組織の決定をルールの適用の結果と見る。あらかじめ定められ
たルール・手続きに基づき行動するとされる官僚組織において、官僚は細かく定め
られた既存のレパートリーから選択肢を選ぶのである。官僚政治モデルは、政治
決定を合理的・知的プロセスの産物ではなく、また組織内の機械的プロセスの産物
でもなく、政治決定に携わる個々人のプレーヤー（アクター）の駆け引きを含む
相互作用の産物（結果）であるとみなす。

c.鉄の三角形モデルとは、利益団体と政治家、官僚が手を組んで既得権益を守
る構図のことである。トルーマンのグループ理論では業界（利益団体）だけに
利益が集中するとされる点で、鉄の三角形と異なる。また、トルーマンの考え
では政策決定の場には色々な団体が自由に参加出来るという開放的・楽観的な
イメージだったが、鉄の三角形モデルでは政策決定に参加出来るメンバーは限
られており閉鎖的だという点もやはり異なる。

d.民主主義の下では、選挙権を持つ有権者は政治活動を政治家に委任する。この関係において、有権者は本人であり政治家は代理人である。次に政治家（特に与党の政治家）は政策の形成や実施を官僚に委任する。この関係では、政治家は本人であり官僚は代理人である。官僚は委任された仕事を成し遂げることが期待されているが、必ずしも政治家の思い通りに動くとは限らない。官僚は個人としては出世をしたい、楽をしたいなどの欲求を、組織人としては権限を拡大したい、予算を増やしたいなどの欲求を持っているからである。この原因として、情報の非対称性と監視コストの問題がある。官僚は仕事の過程を全て政治家に報告するわけではなく、政治家がコストの都合で監視しないことを見越して勝手な行動をするかもしれない、ということである。次に、本人が複数存在しているという問題がある。本人である政治家が複数存在しているため、誰に従えばいいかわからなくなり、結果的に官僚が勝手に行動する。（このように、本人の期待と代理人の行動による結果との間に生じるギャップを「エージェンシー・スラック」という。）

9.

a.アーモンドとヴァーバは、政治文化とは様々な政治的な対象に対する人々の志向のパターンであり、したがって「ある国の政治文化とは、政治的对象に対する志向の、その国民の間に見られる特有の分布のパターンである」と定義する。

b.ある種の政治文化とデモクラシーの成功との間に因果関係がある

c. p414

10.

a.

①二大政党制、政策争点の一つ、世論が単峰上に分布（＝中道穏健的な有権者が多い）

②人々が自分の考え方に一番近い政党を選ぶならば、政策対立軸上の中位投票者の考え方を自らの政策とした政党が勝利する。

③ 二大政党が有権者の望む政策を正しく理解していること（これによりコブの位置＝中位投票者を理解出来る）、政党とは得票の最大化を目指すものである、ということ。

④ ダウنزへの批判として、「すべての争点について世論が単峰状に分布するわけではない」というものがある。

たとえば、米軍基地を〇〇に置くか、置かないか？といった争点では、「置く」「置かない」の二者択一であり、「中道的立場」なるものは存在しない。

b. 分配的政策・規制的政策・再分配的政策

分配的政策とは利益誘導と結びつきがあり、特定の個人や団体への資源の配分である。規制的政策とは個人や団体の行動を規制する一定の基準を設定する政策である。再分配的政策はより福祉国家的なもので、社会階級間のイデオロギー的対立の構造がはっきり現れる。（補足を読もう）

可決した予算を使うだけの分配的政策に対し、後者二つは運用に手間がかかる

11.

a.

機能による分類では、所得保障・医療保障・社会福祉に分類される。所得保障は、個人の力ではどうしようもない事情で所得を失った人に給付する。医療保障では、全ての国民に疾病予防、治療、機能回復の機会を保障し、また病気休業中の所得を一定程度給付する。社会福祉では、一定のサービスなしに生活するのが難しい人々に対して、必要な措置、特に人的サービスを提供するものである。給付方式による分類では、公的扶助・社会保険・社会扶助に分類される。公的扶助は生活に困っている人を無償で助ける仕組み。社会保険では、病気・怪我などで生活に困った人に給付を与え、その生活の安定を図るものである。保険料を支払うことが前提であり、民間の保険と異なり対象者に加入が強制される。社会扶助は、公的扶助と社会保険の中間領域に属するもの。公的扶助の制限を大幅緩和し、保険料を必要としない。サービスの受け手による分類では普遍主義・選別主義にそれぞれ分類される。普遍主義は誰でも同じ水準のサービスを受けられるようにするもので、社会保険・社会扶助の考えに近い。選別主義は十分な生活水準が満たされていない人のみのために行われるべきとするもので、公的扶助の考えに近い。

b.

ウィレンスキーは、「福祉国家と平等」において、経済的に豊かになるにつれ福祉国家化が進むとした。経済水準の向上は高齢化、出生率低下、核家族化をもたらす。従来は家族や地域社会が担っていた福祉サービスを、少子化や核家族化の結果担えなくなり、その肩代わりを国家が担うようになると考えたからである。

コルピは「資源動員論」において、労働組合の組織率が高いほど福祉政策（医療保障）は充実すると考えた。これは福祉政策の恩恵を受ける人の影響力の強さに注目した立場である。資本主義国では労働者が福祉政策の恩恵を受けるので福祉政策を要求し、政治に影響を及ぼす、ということである。

キャッスルズは、左派政党が強いほど、保守的な右派政党が弱いほど、福祉は充実すると考えた。彼は、労働組合と国との間に立つ政党のあり方を考えたのである。

（デビッド・）キャメロンは「公共経済の拡張」において、貿易依存度が高い国ほど、福祉が充実すると考えた。貿易依存度が高いと、国際的な競争力の低い中小企業は淘汰され、雇用、生産が少数の大企業に集中する。すると主に輸出向けの大企業だけが残り、企業（及び労働者）の追求する利益は似通ったものになり、労働組合は組織されやすくまとまりやすい。それゆえ左派政党も強くなり、福祉が充実するとキャメロンは唱える。（途中の別（並立？

）ルートで、貿易依存度が高い国→人口的・市場的に小規模な国→貿易に依存せざるを得ないため少数の大企業集中というのも？）

c.

脱商品化指標と（非）階層化指標。手厚い福祉政策により、労働力の商品としての安売りの必要性が低い、すなわち働かなくても適切に生活ができる状態に近づくことを脱商品化問う。そして脱商品化が広い範囲の労働者に適用されるようになることを非階層化という。

アンデルセンはこの指標を組み合わせて、脱商品化も非階層化も進む社会民主主義型（社会民主主義モデル）、脱商品化も非階層化も進まない自由主義的福祉国家（自由主義モデル）、脱商品化はある程度進むが非階層化が進んでいない保守主義型（保守主義モデル）の3類型に福祉国家を整理した。

以上。なお、この問題集の利用による損害・不利益には一切責任を負わない。